

施設介護や居宅介護に携わる介護者のためのユニフォームについて

○福村愛美\*      近藤信子\*\*      田岡洋子\*<sup>3</sup>      中川早苗\*<sup>4</sup>

(\*倉敷市立短大、 \*\*中国短大、 \*<sup>3</sup>京都短大、 \*<sup>4</sup>奈良女大)

目的 高齢者介護が避ける事ができない社会問題になるにつれて、介護施設や居宅介護の充実が進められてきている。実際に介護に携わる介護者も高齢者が少なくないのが現状である。ユニフォームが決められている介護施設もあるが、年齢に応じてではなく、一律に同じデザインである場合がほとんどである。介護の内容に応じてエプロンをつけたり、職種によっては多少の違いはあるが、全体的に機能性が重視され、ファッション性はあまり追及されていない。本研究では、介護者のための望ましいユニフォームを提案するために、調査をもとに検討し、考察した。

方法 京都府、岡山県、大分県内で、介護に携わっている介護者を対象に、1999年8月～10月及び2000年10月の2回に分けて配票留置法による質問紙調査を行った。有効回収数は398票であった。主な質問項目は、基本属性・介護服の現状・望ましい介護服などについてである。分析方法は、単純集計と因子分析を行った。

結果 単純集計結果から、望ましい介護服のイメージは、明るく、親しみやすく、シンプルなイメージである。又、最も好まれる介護服の色は、ピンク系・水色系であり、好まれる柄は無地が7割を占めた。次に、望ましい介護服のイメージ18項目(5段階SD評定尺度)に対して因子分析を行った結果、固有値1以上の4因子が抽出された。第1因子は「カジュアル性」、第2因子は「親近感」、第3因子は「容儀性」、第4因子は「ファッション性」と解釈した。4因子までの累積寄与率は52.8%であった。